

… 雨でも休まず；第111、112、113回 …

## 「若柳嵐山の森・小原本陣の森」から

- ・活動1：若柳嵐山の森：8月2日(第一曜日)、参加費300円。  
弁当持参。活動終了後、運営会／駅前桂北公民館
  - ・活動2：小原本陣の森：8月10日(第二曜日) 参加費300円。  
弁当持参、9時15分駅前集合。活動の再検討を相談する。
  - ・活動3：若柳嵐山の森：8月17日(第三曜日) 参加費500円。
    - ・活動3は、必ず申込必要：TEL&FAX 03-3411-1636
    - ・弁当は主食(麩パン)だけ持ってくる事、自分の食器(箸・皿・お椀)も持参。  
副食は、相模湖町で調達して作る、同じ釜の飯を食う。
- \*前日16日は、緑の財団エコ青年隊の森林指導催／手弁当て手伝い頼む。
- ・集 合：8時42分、9時02分のJR高尾発。相模湖駅前：9時15分まで待つ。
  - ・服 装；汚れても良い格好・着替え 足元が滑らない履物
  - ・持参品；軍手、万一の怪我に備えて…保険証写し  
そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

### ● 再び、和歌山／「緑の雇用」について…

和歌山県の雇用推進局が進める「森林整備／緑の雇用」の募集130人に対して100人が定住し今年、更に200人を募集し既に、150人が内定した。「農業版」も検討中との事。この政策には、創出雇用に加え過疎対策や環境保護、里山交流活性化などの効果もあると報告している。 … 日経新聞要約

「環境(エコロジー)と経済(エコノミー)は、矛盾しない、工夫が足りないだけ」と国が言う“森林の公益性、多様性”をお金に変える仕組み作りFCC（森・繋ぐ・流域都市の人々）活動に取組んでいる。上流／桂川地域や下流：都市住民／相模原市・平塚市の方々のご協力も得られるようになり一緒に、過日10日／相模原市(朴村長)、22日／神奈川県(松沢県知事)、平塚市(大蔵市長)に流域材の有効活用や森林との多様性事業を申し入れたら検討を約束してくれた。当会の森林ノウハウを取り入れた独自の「神奈川方式／緑の雇用」を県に進言すべく仲間と検討している。

## F S C 活動報告 1 / 第一土曜日活動：若柳嵐山の森：7月5日

蒸し蒸しの薄曇りのこの日、25人参加。森林整備に注力の日なので殆どが広葉樹林の下草刈りに入る事になった。また、農地植樹の桂・ホウの木なども夏草・雑草に覆われておりムシムシ、ムンムンの雑草取り9人が入った。我々は、月一程度の作業だから、こんな“暑さも得難い体験”で済むが、専業の樵さんやお百姓さんのご苦労は如何ばかりのものか。先月、F S Cには、どうしても必要な森林境界線調査に鈴木オジイサンのご案内で白石さん鈴木孝夫さんと4人で森に入った。屈強の白

石さんにオジイサンの護衛、森林インストラクターの鈴木孝夫さんに聞き取りと地図の落し込みをお願いした。鈴木さんは前回調査を一目瞭然の見事な整理図を作成して持参してくれた。この日、頂上からピクニックランド境界線に沿って湖畔側に降りる方針を立て地図に照らし合わせながら始めての藪に入った。実際にあってみると頭で理解していた地図上のイメージと全く異なっていた。完成は8月の予定で鈴木さんの案内で森を辿るが、そうすると森がもっと見えてくる筈。



昼休みに町の古老：榎本昭一さんの話しを聞く

### 真夏の作業の注意

園田 安男

- 1、体調は、どうか。自分は自分で守れ。
- 2、水は必ず持参せよ。水分は早め多めに補給せよ。
- 3、偵察蜂に気を付ける。その付近に必ず巣があるから退散せよ。一度、さされた事のある者は、抵抗が出来ていて反応がひどくなっているから注意せよ。黒は蜂の狙う色だから注意。
- 4、疲れたら直ぐ休め。他人の目を気にするな。
- 5、気合いを入れてやれ。気の抜けた作業が事故に繋がる。

## 活動報告／その2：“小原本陣の森”：7月13日

“若柳・嵐山の森：約60ha”的どが鈴木重彦ご一族の所有で他に見られない森林活動が展開できるが“小原本陣の森”は、地区の人々と協働して「甲州古道復活」も取り入れようという事になった。以下は、神奈川新聞：7月3日報道の要約。

「N P O 法人緑のダム北相模」加藤岑夫さんをお世話係りに進める「甲州古道復活プロジェクト」は、去る6月20日、相模湖・藤野・上野原・大月から19人を集め、午前中は先ず、藤野町～相模湖町境から藤野町歴史郷土館まで古道を歩き、今後の取組方を相談した。夫々の町のグループが夫々の町の古

道に取り組む事とし8月から活動の成果を毎月第四土曜日に持ち寄って報告会を開催する事とした。

藤野町の文化保護委員の吉野さんによると甲州道中は、約400年前、徳川家康の命で整備されたが明治に入って甲州街道と名を改めて国道20号線となった。交通機関が発達するに従って石畳が外され中央道の開通で分断されたが旧道中は、「昔ながらの趣を残しており、豊かな自然に恵まれている。自然保護への関心と森林を知る事となれば」とリーダーの緑のダム会員：加藤さんは言っている。

第一と第二が連日となったせいか、参加三人。責任感の固まり齊藤、継続の達人松尾。無理は止そう、これ幸いと町の重役を訪ねて活動報告と協力要請に巡回する事とした。鈴木重彦氏の所では、経過とこれから計画を話した。全てを受け入れて下さる鈴木氏の大きさに何時もの事ながら畏敬の念を持ちながら辞去了。尾形侯夫氏には、県知事訪問など重要事項を重点に相談した。森林は相模湖町だけでなく津久井郡として捕らえるべきだ、森林組合との連携をどうするかなど重大なアドバイスと協力を約束して下さった。永井宏一氏では、甲州古道と林番16(小駄区)の取組み方を中心に指導を受けた。元観光協会長の鹿島田功一氏には、後任の所谷観光協会長に繋いで頂いた。昼休みの昼食は森に戻って取ったが鈴木オジイサンが、何時もながら有り難い草刈り人を手配して夏草の整理をしていた。早めの帰路、中島さんの経営する湖畔の喫茶に立ち寄って素晴らしい景色を楽しみながら三人でワインを美味しく飲んだ。至福の一日。“継続は力”となる今日の活動。

尚、砂防ダムの工事日程も近く、入り口に立入禁止の標識が設置されていた。“イノシシ罠も仕掛けられているから注意”的警告板も建てられていた。

### 活動報告／第三日曜日活動：若柳嵐山の森：7月20日、

食品関係の企業関係者の団体／連合から日本製粉・キリンビールから14名の参加を加えて54名の参加。午前中は過ごしやすい薄曇り、午後は薄日の差す少し蒸す一日となって作業は楽だった。森林作業班と畠整備班の大きく二つにわかれ作業は、捲った。

FSCの求めている最重要事項は、1)地権者との契約 2)境界線の確定 3)施業計画 である。1)は有る。2)は、8月完成、3)施業計画は、神奈川森つくり公社が作っており我々の計画は、8月完成予定の境界線確認をした後に行政センターの厚沢技官が指導協力してくれる。技官希望による作成日は、ウィークディだが第一土曜日運営会で会員の希望意見を取り入れながら進める。

### 臨時の活動／第三回：緑のダム学校

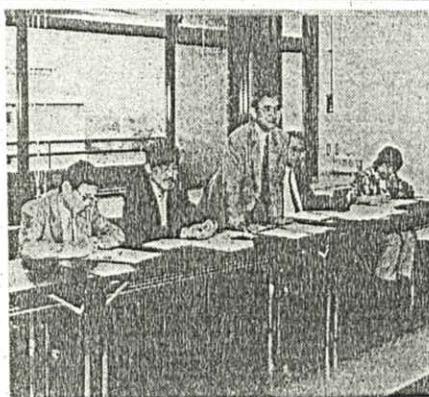
- 8月16日(土)：環境財団エコ青年隊の森林活動を指導する。テント泊まり。集合：午後13時／森に直接来れ。会員の協力求む。夜の生態系調査もやる。齊藤(03-3996-6609)まで連絡請う。
- 8月17日(日)：この活動日は、エコ青年隊（高校生たち）と合流する。



甲州古道／左：藤野宿 —— 右：与瀬宿

## ● 市民：上下流域を繋ぐ FCC 活動／予想以上の展開

模 経 済 新



木材利用の拡大策を探ったセミナー

森林セミナー  
国産木材の消費を増やし、併せて森林保護と相模川水系の水質保全につなげる道を求めようと活動している相模原市の消費者グループと、相模湖町の森林保護団体、山梨県内の木材生産者、建築業者らが一堂に会して話し合はれ、後三時から相模原市立けやき会館で開かれた。NPO法人緑のダム北相模（鈴木重彦代表理事）主催の第三回森林保護セミナーとして開かれ

「流域木材活用を」  
相模川水系の17人参加

たもので、司会を務めた桂川・相模川流域協議会幹事の倉橋満知子さんを中心同NPO、山梨県の大月林務環境部職員、北都留森林組合職員、協同組合「匠の会」の会員ら合わせて十七人が出席。相模原市議の金子豊貴男氏と岩本香苗氏も顔を見せた。

話し合いは国産材、特に桂川・相模川流域で生産される木材の現状とどうすれば需要を高めることができるかをテーマに行われ、倉橋氏が「流域材で家を建てられる」と質問を投げ掛けた。小林康雄理事長が「安定的な供給を確保できるシステムを構築しない限り難い」と答え、五十年前に

また、「家を建てようとする人がひと山買つて木は柱に、この木は板に使うといった手法で直売を行えば、無駄なく安価で家を建てるのではなか」切り出し、運

搬などを森林組合が請け負うといった手法で行えるのに、杉の丸太は同じ価格ということも指摘した。また、「家を建てようとする人がひと山買つて木は柱に、この木は板に使うといった手法で直売を行えば、無駄なく安価で家を建てるのではなか」

1、左は、5月8日の新聞記事／都市部で予想以上の反響でいろんな動きが始まった。

2、7月4日／相模原市に“流域材活用の協力要請”

右の記事を“若柳・嵐山の森”の鈴木重彦氏に報告したら鈴木氏の県会議員当時の盟友／小川勇夫氏が現相模原市長で「協力を要請しよう」と言う事になった。鈴木重彦氏のご案内で溝口相模湖町長共々、小川市長に面会し「これこれ、こう言う訳」話したら小川市長は、それは良い事だと梶山環境保全部長に検討するよう指示を出して下さった。

\* 10日／その後の展開：流域材を生かす試み：環境保全部長訪問：そこで、当会評議員にして、わが国の国産材を生かす第一人者／黒川哲郎さん（建築家・東京芸大）、倉橋満知子さん（相模原市）、当会会員／大坪浩一さん（建築士）を同行し、相模原市／梶山環境保全部長を訪問して「黒川構法／大断面軸受・スケルトンログ構法」を説明した。相模原市は、検討を約束してくれた。同日、相模原市が計画している相模川河川公園の造作物に「流域材を使って欲しい」と建築部・營繕課に申し入れた。大坪さんが見積書を出す事になった。そんな動きの中で小川市長が“先ず、魁より始めよ”とばかり鈴木重彦氏の森の木を使ってご自分の家の改装に使うと言い出して現在、“若柳・嵐山の木”的搬出を始めている。

3、16日／源流／富士吉田から相模湾まで：／富士吉田森林組合と接触、22日／大藏平塚市長に面会「上流／大月～相模湖／若柳・嵐山～中流／相模原の人々」を繋いだら、その動きが上流にも伝わり、和智さん（甲斐東部材成）経由で本物の水源／忍野百海を抱える富士吉田森林組合から「富士吉田も大月の動きと歩調を合わせたい」とアプローチがあった。また、下流／都市部の平塚市を中心とする湘南地区の人々にも伝播して“FCC運動と一緒にやろう”と言う次第。

4、22日／そんな話しが出た途端、未だ早すぎると言うのに「湘南地域協議会」の小宮さんが「遅すぎるより良い」と知人である大藏平塚市長に話してしまった。結果、市長が杉山環境部長につないで下さって小宮さんを窓口に話しを継続する事になった。そんなこんなでトウトウ、源流（富士山麓）から上流（相模湖）～中流（相模原市）～下流（平塚市）～相模湾と線で繋ってしまった。

5、19日／相模原市発：水源の森見学、

24日／純国産材建築現場見学

1、の記事は、“森にお金を返し森を蘇生させる仕組みつくり”を進めて来た「森を生かす／森・繋ぐ・都市の人々／FCC事業」の第三回目のセミナー開催の報道。この記事が引

き金となって相模原の人々から「それでは、水源の森を見て、更に一步進めよう」と言う事になった。

6、7月26日(第4土曜日)／純国産材建築現場を学見学した。その状況は、来月報告。

## ○ 行政：神奈川県との関係発展

1、7月11日／斎藤さんが取組んでいる県／企画部共催の「緑のダム学級」の結果報告とお礼に県庁／企画部を訪ねた。県は、活動を拡大しようと評価してくれた。

\* 7月 同日／加藤さんが新たに始めた「甲州古道復活プロジェクト」の話持ち込んだら県は「伝統・文化・歴史の古道」に取り組む課題に大賛成で、それをどのように進めるか、プロジェクトを組んで各地区の人々と相談しながら進める事にした。

2、……22日／松沢神奈川県知事訪問

松沢神奈川県知事とは、民主党所属の国会議員当時から4年越しのお付き合いだが、そのお近付きの理由は森林問題で、その後も意見の交換をしていた。予想もしなかった神奈川県知事になられて、知事選も終わって落ち着いたので神奈川の森林問題に付いて話し合いたいと連絡したら「会いましょう」と返事を頂いたのがこの日の訪問。以下、その状況報告。

水源の森から／園田(残念ながら突発用で欠席)、岡本(相模湖町)、建築関係／黒川(建築家)、小林(匠の会)・倉橋(相模原) 丸茂(横浜市)の6名で訪問した。「水源の森政策を県民との協働で進めて欲しい」との申し出をしたら「一緒にやりましょう」と言う事になった。林務課長、水源の森推進課長も同席だった。知事面会後的小野沢企画部長との面談は、具体的にどのような方法があるかと言う事になって主に、黒川教授、小林会長の国産材を活す技術と“緑のダム(県民自身)”が水源の森の蘇生に何ができるかを話し合った。

- ・世間の大勢「国産材は、もうダメだ」と言う風潮に疑問を持って「エコ(競争)とエコ(循環)は、矛盾しない」を主張して森を創る／FSC運動などのこの5年の森林活動を通じて、森林の蘇生に光明を見い出しえていたから“火中の栗を拾う覚悟”で、森を生かす／FCCなる運動を始めた。
- ・同時に国産材の品質・技術・流通・価格等、膨大な課題があるが英知を集めて取り組むのだから解決できる筈だと、その方法を求めたら国産材を縦横に使いこなす黒川教授や純国産材名木で50万円台/坪を実行に移していた匠の会／小林会長などとお近付きになった。また、水源の森相模川・桂川の上流の森林組合の人々の協力を得る事も出来た。現状は、明らかに良い方向にある。
- ・「固定観念に囚われず動く森林ボランティアに期待する」と言った月尾先生からドンと背中を押されて始めた森林活動だが、継続して来た事でこんな事が無理なく出来るようになった。それと言うのも真摯に継続していればこそだ。森林に学びながら、慢心や油断を排除して継続してこそ、わが国の荒廃の森林を救う事が出来る。

## ■ 業界：セブン-イレブンみどりの基金／パートナーシップ締結

2年前から活動助成金と言う形で支援を受けていた「セブン-イレブンみどりの基金」から、単なる支援でなく、対等な関係によるパートナー関係を結びたいと話しが出て話し合いを始めた。この仕組みは、全国8地区と取り組んでいるとの事。パートナーの意味・意義と双方の成すべき事の確認を辻田さん・丸茂さん・吉田さんをチームとして2ヶ月かけて「みどりの基金」と話し合って貰った。その内容は、HPに発表する。

NPO活動で一番苦しいのは資金。「セブン-イレブンみどりの基金」は、無条件で活動に一切の口出ししない約束で先ず150万円を出してくれた。辻田リーダーのもと、これを最も有効に使う方法として自助努力による資金の捻出システムに投資する事とした。そこで会員公募による事業、「森を創る

／F S C事業」に75万円、「森を生かす／F C C事業」に75万円を割振り以下のように進める事とした。

● F S C 事業／統括：園田安男

- ・森を創る事業／資本金75万円
- 1) 森林整備事業班
- 2) 森林隣接／はたけ事業班

● F C C 事業／統括／石村黄仁

- ・森を生かす事業／資本金75万円
- 1) 森・繋ぐ・流域都市部の人々F C C事業班
- 2) 里山交流事業：緑の学校・甲州古道復活班

車両やガソリン及び共通の作業道具購入費用に夫々30万円ずつ割り当て、残りの45万円の範囲で事業を立ち上げて貰う事にした。事業として利益を出せるか否かは、各部担当者の腕次第だが、N P O活動の維持のために特定事業（当会の場合は、森林）以外に収益活動も認められている。積極的に収益活動に参画して自助努力による資金の捻出も進める。

## □ 7月の運営会

第一期通常総会を6月に終え渋谷から相模湖町に運営会場を移動して参加者が急増した。その結果、いろんな意見が吹き出した。活動が強くなるプロセスだから大切にしたい。8月は、2日に開催。

### 甲州道中小原本陣を詠む

甲州道中最大の難所海拔548mの小仏峠に、松尾芭蕉は「ひばりより上にさぶろう峠かな」の名句を残します。

全甲州道中を下諏訪まで歩き通した柏江市の堀内宣子さんは「木洩日の 摺らぐ古道 甲州路 下りと九番の小原宿にはいる」と詠んでいます。

また、本陣で開催した八王子の句会の席で、渡辺栄三郎先生は…宿駅の 有為転変や 札散筆 と発句しています。

小仏峠を越え、緑の濃い木のたたずまいを見せ

る小原宿に入り、神奈川の唯一の県有形文化財の小原本陣を見学する人達は年間五千人を越えます。

甲州道中は、また、風趣豊かな森林に恵まれた古道です。文化遺産としてこの古道を保存し、後世に伝えるためには森を愛し、森を生かす事が大切です。「緑のダム／さがみ湖・森つくりの会」の生産的な活動の担う役割は大きいですね。今回より、甲州道中連載し甲州道中を降りる小原宿本陣をシリーズで掲載します。

(文責：中里)

- 1) 8月2日(第一回)：若柳嵐山の森  
9時30分、森に集合、弁当持参  
参加費300円、同日／運営会
- 2) 8月10日(第二回)：小原本陣の森  
9時15分、駅前集合、弁当持参  
参加費300円、甲州古道活動
- 3) 8月17日(第三回)：若柳嵐山の森  
9時30分、森に集合、飯のみ持参  
参加費500円、里山交流

モットー／急がず、休まず、楽しく、無理せず、ボチボチ…  
そして、沢山のご意見、参加下さい。  
名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)  
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9  
T & F／お世話係 石村 黄仁／自然科学研究所内  
協 働／セブン-イレブンみどりの基金  
H P : <http://www008.upp.so-net.jp/kitasami>  
支援団体：国土緑化推進機構、世界自然保護基金、損保ジャパン／環境財団